

ARCS V1 一般ユーザ用マニュアル

Copyright © 2026 Antenna House, Inc. All rights reserved.
Antenna House is a trademark of Antenna House, Inc.

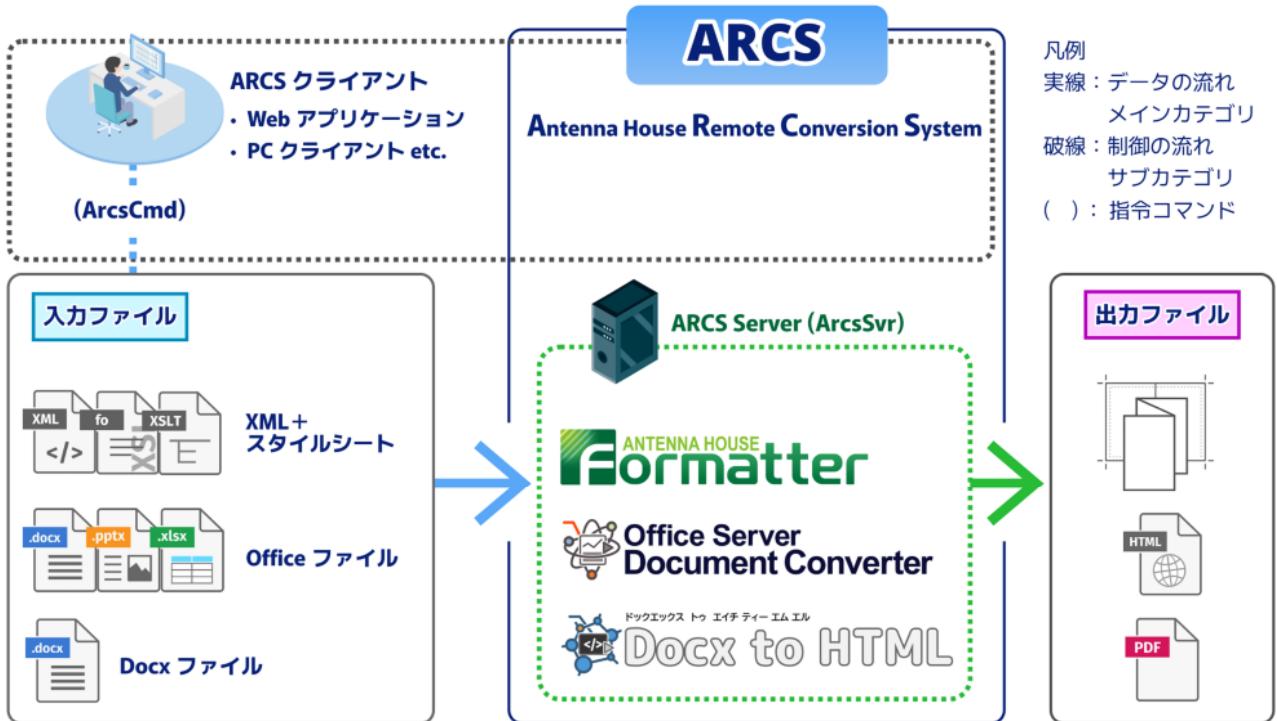


1. はじめに

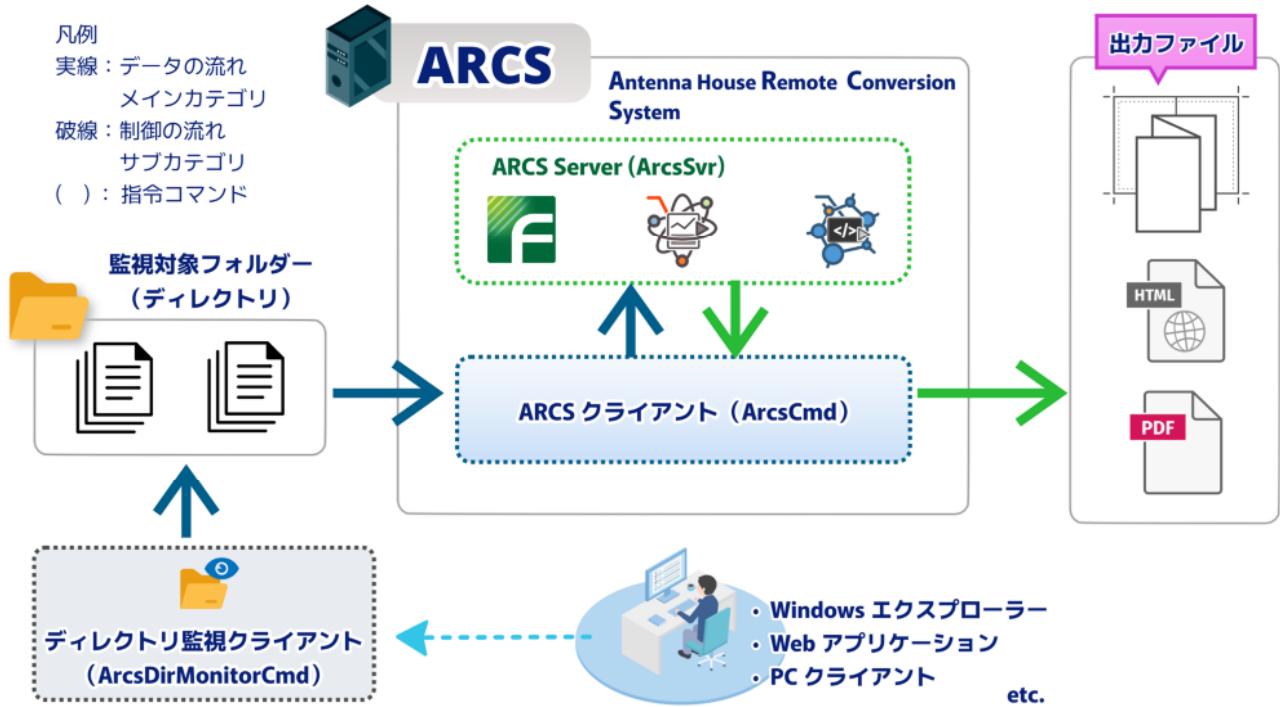
「Antenna House Remote Conversion System (以下、ARCS)」は、サーバーにインストールされたアンテナハウス製品、

- Antenna House Formatter (以下、Formatter)
- Office Server Document Converter (以下、OSDC)
- Docx to HTML (以下、DHC)

を、ネットワークを通じて、リモートのクライアントから実行するためのシステムです。



さらに、ARCS のディレクトリ監視ソフトを使うと、Windows のエクスプローラーで変換したい文書を、監視対象のフォルダ(ディレクトリ)にドラッグ・アンド・ドロップ (ドラッグ&ドロップ) するだけで、変換ができます。



ARCS を使うことで、次のようなメリットがあります。

- 前述のアンテナハウス製品を、遠隔から実行できます。
- ディレクトリ監視ソフトを使って、簡単に変換を実行できます。

本マニュアルは ARCS の一般ユーザ向けマニュアルです。

ARCS は、サーバーとクライアントに分かれていますが、一般ユーザは、クライアントしか使いませんので、クライアントの解説をします。

以下では、

- 動作環境
- セキュリティ上の留意事項
- 制限事項
- インストールとアンインストール
- ライセンスの設定
- 環境変数
- 起動と終了
- エラーと対処方法
- 設定ファイル
- カスタマイズ

などについて解説します。

1.1 用語

本マニュアルでは、以下の用語を使います。

ディレクトリ

Windows のフォルダと Linux のディレクトリの両方を意味します。

ターミナル

Windows のコマンドプロンプトと Linux のターミナルの両方を意味します。

ARCS 管理者

ARCS の管理を行うユーザ。

ARCS のインストール、設定、サーバーソフトの起動などが実行可能なユーザ。

ただし、ARCS の管理者ではあっても、システム（OS）の特権ユーザではなく、システム（OS）からみれば、一般ユーザであることに注意。

本マニュアルでは、arcs_admin と表記します。

ARCS ユーザ

ARCS のクライアントソフトを実行するユーザ。

本マニュアルでは、arcs_user と表記します。

アプリケーション

Formatter, OSDC, DHC など、サーバーで実行するアンテナハウス製品。

インポート

サーバーにディレクトリやファイルを取り込むこと。

クライアントからの視点では、サーバーにアップロードすること。

エクスポート

サーバーからディレクトリやファイルを取り出すこと。

クライアントからの視点では、サーバーからダウンロードすること。

1.2 お問い合わせ先

本製品の購入、機能、操作についての質問は、電子メールで次までお問い合わせください。

sis@antenna.co.jp

ヒント

本製品の Web マニュアルは、Microsoft Word で編集して、「Docx to HTML」で HTML に変換しました。

PDF のマニュアルは、同じ Word 文書から「Antenna House PDF Driver API」で PDF 出力しました。

目次

ARCS V1 一般ユーザ用マニュアル.....	1
1. はじめに.....	2
1.1 用語	4
1.2 お問い合わせ先	5
2. 動作環境.....	8
2.1 Windows 版.....	8
2.2 Linux 版	8
2.3 仮想環境.....	9
3. 制限事項.....	10
3.1 ファイル名やディレクトリ名に使えない文字.....	10
3.2 ファイル名やディレクトリ名の最大長	10
3.3 インポートについて	10
3.4 エクスポートについて	10
3.5 変換元ファイル内のディレクトリやファイルの指定	10
3.6 インポートできる最大ファイル数、最大ファイルサイズ、最大トータルファイルサイズ	11
4. インストールとアンインストール	12
4.1 インストールする前に.....	12
4.2 インストール	12
4.2.1 Linux.....	12
4.2.2 Windows 版	13
4.3 アンインストール	13
5. ライセンス	14
5.1 評価版ライセンス	14
5.2 正規ライセンス	14
5.3 ライセンスファイルの設定	14
6. 環境変数.....	15
6.1 クライアントソフトが使う環境変数.....	15

ARCS V1 一般ユーザ用マニュアル

6.1.1	ARCS_HOME.....	15
6.1.2	PATH	15
6.2	ディレクトリ監視ソフトが使う環境変数	15
6.2.1	ARCS_HOME.....	15
6.2.2	ARCS_USER_NAME.....	16
6.2.3	PATH	16
6.2.4	ディレクトリ監視ソフト用追加オプション環境変数.....	16
6.2.5	変換オプション追加用環境変数.....	17
7.	起動と終了	18
7.1	クライアントソフト ArcsCmd.....	18
7.2	ディレクトリ監視ソフト ArcsDirMonitorCmd	18
8.	コマンドライン引数とオプション	21
8.1	クライアントソフト ArcsCmd.....	21
8.1.1	コマンドライン書式.....	21
8.1.2	コマンドライン引数とオプション	21
8.2	ディレクトリ監視ソフト ArcsDirMonitorCmd	23
8.2.1	コマンドライン書式.....	23
8.2.2	コマンドライン引数とオプション	23
9.	エラーと対処方法	24
9.1	ARCS のエラー	24
9.2	アプリケーションのエラー	25
奥付け	26	

2. 動作環境

2.1 Windows 版

対応 OS	Windows Server 2025 Windows Server 2022 Windows 11 メーカー側のサポートが終了した OS は、動作保証外となります。
CPU	上記 OS が正常に動作する Intel 系の CPU、および 100% 互換性を持つプロセッサー
メモリ	上記 OS が推奨するメモリ以上（これに加えて 1GB 以上の空き容量を推奨）
ハードディスク	本製品のインストールに必要な 250MB 以上の空き容量
プログラミング言語	Go 1.25 でビルドされています。 一部は、Microsoft Visual C++ 2022 でビルドされています。 これらでビルドされたプログラムが動く環境が必要です。 Microsoft Visual C++ 2022 の ランタイムライブラリは、 <u>Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージ</u> から入手可能です。

2.2 Linux 版

対応 OS	RockyLinux 9 以上 Alma Linux 9 以上 RedHat Enterprise Linux 9 以上は、Rocky Linux, AlmaLinux と互換性がある部分での動作保証になります。 メーカー側のサポートが終了した OS は、動作保証外となります。
-------	--

ARCS V1 一般ユーザ用マニュアル

CPU	上記 OS が正常に動作する Intel 系の CPU、および 100% 互換性を持つプロセッサー
メモリ	上記 OS が推奨するメモリ以上（これに加えて 1GB 以上の空き容量を推奨）
ハードディスク	本製品のインストールに必要な 250MB 以上の空き容量
プログラミング言語	Go 1.25 でビルドされています。 一部は、GCC 11 でビルドされています。 これらでビルドされたプログラムが動く環境が必要です。

2.3 仮想環境

仮想環境で実行する場合、実環境上と同じ動作が保証されている場合のみ、動作保証します。

3. 制限事項

3.1 ファイル名やディレクトリ名に使えない文字

Linux と Windows のディレクトリやファイルを同じに扱うために、また、セキュリティ上の理由により、以下の文字は、変換元や変換先のパス名の最後の要素であるファイル名やディレクトリ名には使えません。

¥ / : * ? " < > | ; ()

3.2 ファイル名やディレクトリ名の最大長

Linux と Windows のディレクトリやファイルを同じに扱うために、また、セキュリティ上の理由により、変換元や変換先のパス名の最後の要素であるファイル名やディレクトリ名の最大長は、127 バイトです。

3.3 インポートについて

セキュリティ上の理由により、アプリケーションの変換元指定で、パスの最後の要素がディレクトリだった場合、サーバーにインポートされるのは、そのディレクトリ直下のファイルのみです。さらにディレクトリを下降して、ディレクトリやファイルをインポートすることはありません。

3.4 エクスポートについて

セキュリティ上の理由により、サーバーからエクスポートされるのは、変換先ファイルと、サーバー上で、そのファイルと同じディレクトリにあるディレクトリのみです。さらにディレクトリを下降して、ディレクトリやファイルをエクスポートすることはありません。

3.5 変換元ファイル内のディレクトリやファイルの指定

セキュリティ上の理由により、サーバーにインポートされた変換元ファイル内で、変換元ファイルがあるディレクトリより上のディレクトリやファイル、別のディレクトリやファイルを参照するものは、使えません。

例えば、Formatter の XSL-FO で、

```
<fo:external-graphic src="url('../img/image.png')"/>
```

という指定は、変換時に参照するディレクトリやファイルがサーバーにインポートされていないため、エラーになります。

この場合、XSL-FO の

```
<fo:external-graphic src="url('../img/image.png')"/>
```

を

```
<fo:external-graphic src="url('image.png')"/>
```

と修正します。

そして、image.png をサーバー上の変換元ファイルと同じディレクトリにインポートするため、

ArcsCmd の-arcs-data オプションを使います。

```
ArcsCmd -arcs-data C:\my-images\img\image.png AHFCmd -d my.fo -o my.pdf
```

-arcs-data の詳細については、クライアントソフトの「コマンドライン引数とオプション」を参照してください。

ディレクトリ監視ソフトを使う場合、あらかじめ、-arcs-data オプションを環境変数で設定しておく必要があります。

詳しくは、「ディレクトリ監視ソフトが使う環境変数」の「ディレクトリ監視ソフト用追加オプション環境変数」を参照してください。

3.6 インポートできる最大ファイル数、最大ファイルサイズ、最大トータルファイルサイズ

セキュリティ上の理由により、インポートできる最大ファイル数、最大ファイルサイズ、最大トータルファイルサイズには制限があります。

4. インストールとアンインストール

4.1 インストールする前に

インストールするディレクトリをどこにするか、ディレクトリやファイルのアクセス権はどうするかといった、セキュリティに関するものについては、ARCS を利用する組織（企業や団体）のセキュリティポリシーにしたがう必要があります。

ARCS 管理者からの指示にしたがってください。

4.2 インストール

4.2.1 Linux

インストールするディレクトリやアクセス権の設定は、ARCS を利用する組織（企業や団体）のセキュリティポリシーにしたがい、ARCS 管理者が指示、設定します。

ARCS 管理者の指示にしたがってください。

ここでは、arcs_user というユーザが、アーカイブファイル

日本語版：ARCS-ja-user-Linux-X86-64-XXXXXXX.tar.gz

XXXXXXX の部分は年月日 20260101 など

または、

英語版：ARCS-en-user-Linux-X86-64-XXXXXXX.tar.gz

XXXXXXX の部分は年月日 20260101 など

を展開して、/home/arcs_user にインストールしたと仮定すると、以下のディレクトリ構造になります。

/home/arcs_user/ARCS ARCS のホームディレクトリ。ここを ARCS_HOME に設定する

/home/arcs_user/ARCS/client ARCS クライアントソフトのディレクトリ

/home/arcs_user/ARCS/client/bin プログラム

/home/arcs_user/ARCS/client/certs TLS の証明書を入れる場所

/home/arcs_user/ARCS/client/conf 設定ファイルがある場所

/home/arcs_user/ARCS/client/conf/apps アプリケーションの設定ファイルがある場所

/home/arcs_user/ARCS/client/scripts アプリケーション実行用のスクリプトがある場所

4.2.2 Windows 版

インストールするディレクトリやアクセス権の設定は、ARCS を利用する組織（企業や団体）のセキュリティポリシーにしたがい、ARCS 管理者が指示、設定します。

ARCS 管理者の指示にしたがってください。

ここでは、arcs_user というユーザが、アーカイブファイル

日本語版：ARCS-jp-user-Windows-X86-64-XXXXXXX.zip

XXXXXXX の部分は年月日 20260101 など

または、

英語版：ARCS-en-user-Windows-X86-64-XXXXXXX.zip

XXXXXXX の部分は年月日 20260101 など

を展開して、C:\ARCS_USER\ARCS にインストールしたと仮定すると、以下のディレクトリ構造になります。

C:\ARCS_USER\ARCS ARCS のホームディレクトリ。ここを ARCS_HOME に設定する

C:\ARCS_USER\ARCS\client ARCS クライアントソフトのディレクトリ

C:\ARCS_USER\ARCS\client\bin プログラム

C:\ARCS_USER\ARCS\client\certs TLS の証明書を入れる場所

C:\ARCS_USER\ARCS\client\conf 設定ファイルがある場所

C:\ARCS_USER\ARCS\client\conf\apps アプリケーションの設定ファイルがある場所

C:\ARCS_USER\ARCS\client\scripts アプリケーション実行用のスクリプトがある場所

4.3 アンインストール

ARCS 管理者の指示にしたがって、インストールディレクトリ以下を削除してください。

クライアントソフト、ディレクトリ監視ソフトのアンインストールでは、環境変数 ARCS_HOME を削除してください。

ディレクトリ監視ソフトで指定した監視対象のディレクトリを削除する場合、その下に、

- 処理に失敗したファイルが入る error-dir
- 処理に成功したファイルが入る success-dir
- out_pdf など出力先ディレクトリ

がある場合は、念のため、ファイルを退避してから、監視対象のディレクトリを削除するほうが無難です。

5. ライセンス

5.1 評価版ライセンス

初期状態のライセンスは、評価版のライセンスです。評価版の使用期間は 30 日間です。

ARCS のライセンスが、評価版ライセンスの間は、変換に使うアプリケーションのライセンスが正規ライセンスであっても、アプリケーションは評価版として動きます。

5.2 正規ライセンス

本製品を購入された場合、正規ライセンス（ライセンスファイル）とライセンス証書が提供されます。

ライセンスについては、アンテナハウスの

<https://www.antenna.co.jp/purchase/license-sys.html>

ライセンス案内

をご覧ください。

5.3 ライセンスファイルの設定

ライセンスファイル名は「arcs.lic」です。

インストールディレクトリが、

Linux では、/home/arcs_user/ARCS

Windows では、C:¥ARCS_USER¥ARCS

だとすると、ARCS 直下にあります。

Linux では、

ARCS/arcs.lic

Windows では、

ARCS¥arcs.lic

にあります。

そこに、正規ライセンスファイルをコピーしてください。

6. 環境変数

6.1 クライアントソフトが使う環境変数

6.1.1 ARCS_HOME

インストールディレクトリの絶対パスを設定してください。

このディレクトリ以下は、クライアントソフトを実行するユーザが読み書き実行が可能なアクセス権にしてください。

Linux の例

/home/arcs_user/ARCS

Windows の例

C:¥ARCS_USER¥ARCS

6.1.2 PATH

インストールディレクトリが、

Linux では、/home/arcs_user/ARCS

Windows では、C:¥ARCS_USER¥ARCS

だとすると、

Linux では、

/home/arcs_user/ARCS/clientr/bin

Windows では、

C:¥ARCS_USER¥ARCS¥client¥bin

を PATH に追加してください。

Windows では、システム環境変数ではなく、ユーザ環境変数の PATH に、追加してください。

6.2 ディレクトリ監視ソフトが使う環境変数

6.2.1 ARCS_HOME

インストールディレクトリの絶対パスを設定してください。

ARCS V1 一般ユーザ用マニュアル

このディレクトリ以下は、クライアントソフトを実行するユーザが読み書き実行が可能なアクセス権にしてください。

Linux の例

/home/arcs_user/ARCS

Windows の例

C:¥ARCS_USER¥ARCS

6.2.2 ARCS_USER_NAME

変換結果の出力をユーザごとに分けたいときに使います。通常は設定する必要はありません。

6.2.3 PATH

インストールディレクトリが、

Linux では、/home/arcs_user/ARCS

Windows では、C:¥ARCS_USER¥ARCS

だとすると、

Linux では、

/home/arcs_user/ARCS/clientr/bin

Windows では、

C:¥ARCS_USER¥ARCS¥client¥bin

を PATH に追加してください。

Windows では、システム環境変数ではなく、ユーザ環境変数の PATH に、追加してください。

6.2.4 ディレクトリ監視ソフト用追加オプション環境変数

ディレクトリ監視ソフトを実行するときに使える、追加オプションの環境変数を用意しています。

ARCS_OPT, ARCS_OPT1, ARCS_OPT2, ARCS_OPT3 の 4 系統を用意しています。

必要に応じて、ディレクトリ監視ソフトを実行する前に設定しておいてください。

オプションの名前用

ARCS_OPT_NAME, ARCS_OPT1_NAME, ARCS_OPT2_NAME, ARCS_OPT3_NAME

オプションの値用

ARCS_OPT_VALUE, ARCS_OPT1_VALUE, ARCS_OPT2_VALUE, ARCS_OPT3_VALUE

典型的な使い方は、-arcs-data オプションの設定に使います。

変換に使う画像ファイルをあらかじめインポートする場合、C:\data\img ディレクトリに画像ファイルがあるとして、

```
set ARCS_OPT_NAME=-arcs-data
set ARCS_OPT_VALUE=C:\data\img
```

で、環境変数を設定して、ディレクトリ監視ソフトを起動します。

6.2.5 変換オプション追加用環境変数

アプリケーションを実行するとき、変換オプションを追加するための環境変数を用意しています。

必要に応じて、ディレクトリ監視ソフトを実行する前に設定しておいてください。

- Formatter 用は、ArcsAHFCmdOpts
- OSDC 用は、ArcsSBCCmdOpts
- DHC 用は、ArcsDHCCmdOpts

です。

7. 起動と終了

7.1 クライアントソフト ArcsCmd

クライアントソフトを実行するには、ターミナルを起動して、ARCS のクライアントの環境変数を設定します。

起動するには、ArcsCmd の後に、アプリケーションのコマンドと引数を並べるだけです。

次は、アプリケーションのコマンドと引数の指定例です。

```
ArcsCmd AHFCmd -d foo.fo -o foo.pdf @PDF
ArcsCmd SBCCmd -d foo.docx -o foo.pdf -p @PDF
ArcsCmd DHCCmd -d foo.docx -o foo.html
```

クライアントソフトには、特に終了操作はありません。実行すると、ARCS のサーバーに変換処理を依頼して、結果を受け取って終了します。

7.2 ディレクトリ監視ソフト ArcsDirMonitorCmd

ディレクトリ監視ソフトを起動するには、新しくターミナルを起動して、ARCS のクライアントの環境変数を設定して、監視したいディレクトリに移動して、

```
ArcsDirMonitorCmd start
```

で、起動します。

複数のディレクトリ監視ソフトを起動するには、新しくターミナルを起動して、ARCS のディレクトリ監視ソフトの環境変数を設定します。

それまで起動しているディレクトリ監視ソフトとは違うディレクトリに移動して、

```
ArcsDirMonitorCmd start
```

で、起動します。

設定ファイルを指定したり、監視対象のディレクトリを指定できます。

ARCS V1 一般ユーザ用マニュアル

次に示すのは、Word の文書を OSDC で変換する設定ファイル dirmon_osdc.yaml と DHC で変換する dirmon_dhc.yaml を用意して、OSDC で変換するディレクトリと HDC で変換するディレクトリを指定する例です。

OSDC で変換する例

```
ArctsDirMonitorCmd -config ¥dirmon_conf¥dirmon_osdc.yaml -dir C:¥Watch¥OSDC
```

DHC で変換する例

```
ArctsDirMonitorCmd -config ¥dirmon_conf¥dirmon_dhc.yaml -dir C:¥Watch¥DHC
```

監視がスタートしたら、あとは、監視対象のディレクトリに、変換したいファイルを、コピーするか移動するだけです。

ターミナルを起動して、コマンドラインで、コピーや移動することもできますが、Windows では、Windows エクスプローラーで、ドラッグ・アンド・ドロップ（ドラッグ & ドロップ）するのが簡単です。

ディレクトリ監視ソフトを終了するには、新しくターミナルを起動して、ARCS のクライアントの環境変数を設定して、監視したいディレクトリに移動して、

```
ArctsDirMonitorCmd stop
```

で、終了します。

あるいは、-dir で監視対象ディレクトリを絶対パスで指定して終了します。

```
ArctsDirMonitorCmd stop -dir C:¥watch¥OSDC
```

で、終了します。

もっと簡単にディレクトリ監視ソフトを終了するには、Ctrl-C などコマンドを終了するキーを押すか、ターミナルを終了します。

【重要】

実際に変換が実行されるのは、監視対象のディレクトリに、ファイルが作られたときです。上書きやリネームでは実行されないことに注意してください。

変換したいファイルと同じ名前のファイルが、監視対象のディレクトリにある場合は、それを削除してから、変換したいファイルのコピーや移動をしてください。

初期設定では、

- 変換に成功したファイルは、監視対象ディレクトリの success_dir に入ります。
- 変換に失敗したファイルは、監視対象ディレクトリの error_dir に入ります。
- 変換結果の PDF ファイルは、監視対象ディレクトリの out_pdf に入ります。
- 変換結果の PNG ファイルは、監視対象ディレクトリの out_png に入ります。
- 変換結果の JPG ファイルは、監視対象ディレクトリの out_jpeg に入ります。
- 変換結果の TIFF ファイルは、監視対象ディレクトリの out_tiff に入ります。
- 変換結果の MTIFF ファイルは、監視対象ディレクトリの out_mtiff に入ります。
- 変換結果の SVG ファイルは、監視対象ディレクトリの out_svg に入ります。
- 変換結果の HTML ファイルは、監視対象ディレクトリの out_html に入ります。

8. コマンドライン引数とオプション

8.1 クライアントソフト ArcsCmd

8.1.1 コマンドライン書式

グローバルオプションは、ArcsCmd 直後から、アプリケーションのコマンド (application_command) の前に指定するオプションです。

ArcsCmd [options...] application_command application_command_args

8.1.2 コマンドライン引数とオプション

-?, -h, -v, -arcs-data, -arcs-mkdir は、アプリケーションのコマンドの前に指定するグローバルオプションです。

オプションや引数	説明
-?や-h	ヘルプを表示します。
-v	バージョン情報とライセンスファイルの情報を表示します。
-arcs-data	変換に必要なデータをサーバーにインポートします。
-arcs-mkdir	変換に必要なディレクトリをサーバー上に作成します。
アプリケーションのコマンド	アプリケーションを実行するコマンド。AHFCmd, SBCCmd, DHCCmd など。
アプリケーションの引数	アプリケーションに渡す引数。

-arcs-data は、変換に必要なデータをサーバーにインポートするときに使います。何回でも指定できます。

制限事項の「変換元ファイル内のディレクトリやファイルの指定」や「ディレクトリ監視ソフトが使う環境変数」の「ディレクトリ監視ソフト用追加オプション環境変数」も参照してください。

次の例は、AHFCmd の変換元 my.fo の中に、image.png を参照する指定があるという想定です。

クライアントマシンにあるファイル C:\my-images\image.png をサーバー上の変換元ファイルと同じディレクトリにインポートするために使っています。

制限事項の「変換元ファイル内のディレクトリやファイルの指定」で述べたように、XSL-FO の修正が必要になる場合もあります。

```
ArcsCmd -arcs-data C:\my-images\image.png AHFCmd -d my.fo -o my.pdf
```

変換に必要なデータが多数あるときは、クライアントマシンの特定ディレクトリにそれらを集めて、1つの-arcs-data オプションで、そのディレクトリを丸ごとインポートする方法もあります。

次の例は、AHFCmd の変換元 my.fo の中に、多数の画像を参照する指定があるという想定です。

画像をクライアントマシンの C:\my-images\many-images ディレクトリに集めて、サーバにインポートするために使っています。

インポートすると、ARCS サーバーが管理しているディレクトリの下に、many-images ディレクトリが作られ、その下に多数の画像ファイルが作られます。

XSL-FO では、many-images\image1.png, many-images\image2.png のように、many-images ディレクトリを付けた相対パスで、画像ファイルにアクセスする必要があります。したがって、XSL-FO の修正が必要になる場合もあります。

```
ArcsCmd -arcs-data C:\my-images\many-images AHFCmd -d my.fo -o my.pdf
```

毎回、多数の画像ファイルなど、変換に必要なものをサーバーにインポートするのを省略したい場合、-arcs-data を使わない方法もあります。

あらかじめ、ARCS とは関係なく、サーバー上に必要なものを配置しておきます。

XSL-FO では、サーバー上の絶対パスを指定して、必要なものにアクセスします。

Formatter V7.5 から、

```
<fo:external-graphic src="file:///C:/my-images/image.png"/>
```

のように、絶対パスを指定できるようになりました。

詳しくは、Formatter 技術的資料の URI

<https://www.antenna.co.jp/AHF/help/ja/ahf-tech.html#URI>

を参照してください。

ただし、これは、セキュリティ上は好ましくないので、推奨はしません。組織（企業や団体）のセキュリティポリシーが、サーバー上のいろいろな場所にあるファイルにアクセスするのを許している場合にのみ、使える方法です。

-arcs-mkdir は、変換に必要なディレクトリをサーバー上に作ります。何回でも指定できます。

次の例は、OSDC の変換で、SVG の出力先ディレクトリが必要なので、使っています。

```
ArcsCmd -arcs-mkdir svg-image SBCCmd -d my.pdf -o my.svg -p @SVG -svgip 1
```

OSDC V10 からは、OSDC 自身に SVG のディレクトリを作る、-svgcicp オプションが追加されたので、-arcs-mkdir を使う必要はなくなりました。

```
ArcsCmd SBCCmd -d my.pdf -o my.svg -p @SVG -svgip 1 -svgcicp svg-image
```

8.2 ディレクトリ監視ソフト ArcsDirMonitorCmd

8.2.1 コマンドライン書式

グローバルオプションは、ArcsDirMonitorCmd の直後から、start や stop の前に指定するオプションです。

```
ArcsDirMonitorCmd [global options...] start [options...] or stop [options...]
```

8.2.2 コマンドライン引数とオプション

-?, -h, -v は、start や stop の前に指定するグローバルオプションです。

オプションや引数	説明
-?や-h	ヘルプを表示します。
-v	バージョン情報とライセンスファイルの情報を表示します。
start	ARCS ディレクトリ監視ソフトを起動します。
stop	ARCS ディレクトリ監視ソフトを終了します。

start と stop には、さらにオプションがあります。

オプションや引数	説明
-config	設定ファイルを指定します。
-dir	監視するディレクトリを指定します。

9. エラーと対処方法

エラーは、ARCS のエラーとアプリケーションのエラーに大別できます。

ARCS のエラーの多くは、通信に関するものです。

アプリケーションのエラーの多くは、アプリケーションのコマンドライン引数が間違っています。

エラーメッセージは多岐にわたるので、一部を紹介します。

エラーメッセージも、一部だけを抜粋しています。

9.1 ARCS のエラー

ARCS で発生する代表的なエラーです。

サーバーが動いていないとき

エラーメッセージ

No connection could be made because the target machine actively refused it.

エラーの原因

ARCS サーバーが動いていない。

対処法

ARCS サーバーを起動してください。

タイムアウトしたとき

エラーメッセージ

deadline exceeded

エラーの原因

巨大なファイル、サーバーマシンのメモリやパワーが足りないときに発生しがちです。

対処法

ARCS 管理者は、サーバーマシン上で、ARCS を使わずに、直接アプリケーションを実行して問題を調べてください。

その結果によって、サーバー設定ファイルの `exec_timeout` の値を調整してください。

ファイルが見つからないとき

エラーメッセージ

could not import. file or directory does not exist

エラーの原因

主に変換元の入力ファイルが見つからず、インポートできないときのエラーです。

変換元ファイル以外にも、アプリケーションのコマンドラインに、

存在しない設定ファイルや CSS ファイルを指定したときにも発生します。

ファイルのある場所の間違い、ファイル名の間違いが大半です。

対処法

存在するファイルを指定してください。

サポートしていないアプリケーションを使おうとしたとき

エラーメッセージ

could not convert rpc error: code = Unknown desc = exec: "osdc": executable file not found

対処法

例えば、OSDC を使おうとして、SBCCmd ではなく、OSDC とする失敗例があります。

アプリケーションの正しいコマンド名を使ってください。

9.2 アプリケーションのエラー

アプリケーションのエラーの多くは、アプリケーションに渡すコマンドライン引数やオプションが間違っている場合に発生します。

アプリケーションのエラーメッセージは、ターミナル画面では、アプリケーションの標準出力の部分 (execCmd: stdout: === begin==から、execCmd: stdout: === end ==まで) か

標準エラー出力の部分 (execCmd: stderr: === begin==から、execCmd: stderr: === end ==まで) に 出ます。

正しい引数やオプションを指定しているか、見直してください。

エラーメッセージが出たときは、クライアントソフト ArcsCmd を使わず、アプリケーション単体 (AHFCmd, SBCCmd, DHCCmd) で実行するのも、有効なエラー発見方法です。

アプリケーション単体のコマンドラインに引数を指定して実行し、エラーが起きるかどうか試してください。単体でエラーが起きれば、ARCS のエラーではなく、アプリケーションの引数が間違っています。

正しい引数やオプションを指定しているか、見直してください。

ディレクトリ監視ソフト ArcsDirMonitorCmd で発生するエラーでは、セッションログを使うのも、有効なエラー発見方法です。

詳しくは、ARCS 管理者に相談してください。

奥付け

ARCS V1 管理者用マニュアル

製品バージョン：1.0

発行日：初版 2026 年 2 月

発行元：東京都中央区東日本橋 2 丁目 1 番 6 号 アンテナハウス株式会社

Copyright ©2025 Antenna House, Inc.

本製品の Web マニュアルは、Microsoft Word で編集して、「Docx to HTML」で HTML に変換しました。

PDF のマニュアルは、同じ Word 文書から「Antenna House PDF Driver API」で PDF 出力しました。